



学校だより

令和4年2月21日(月)

大分市立賀来小中学校

校長 生野京子

NO26

学級懇談会にあたって

あっという間の1年間でした。本年度は新型コロナウイルスの影響で様々な行事の変更を余儀なくされました。そんな中でも子どもたちは「想像力」と「創造力」であらゆることを乗り越えてきました。行事や授業にも制限がありましたがその中でも子どもたちは明るくたくましく活動しました。豊賀祭での走りや演技、文化の部でのビデオメッセージ、どれもそれぞれの学年が学習してきたことの発表が工夫してできました。今年はフィジー共和国との交流、マスコットキャラクター、「賀っこま」もできました。

今、校長室の外のグラウンドでは子どもたちが体育の授業に取り組んでいます。学年で集まることをやめているので、クラスごとグラウンドを広く使って、マスクをつけての体育です。しかし、そのような環境の中でも子どもたちはできることに精いっぱい取り組んでいます。

今年1年、保護者の皆様にはいろいろな面で支えられてきました。私たち教職員も精いっぱいお子様の教育にあたってまいりましたが、行き届かなかった点も多かったのではないかと思います。来年度も保護者の皆様と力を合わせて子どもたちを育てていきたい、また私たち教職員も成長していきたいと思っています。たいへんお世話になりました。これからもよろしくお願いいたします。

賀っこま



4年生は東から西校舎へ

地域の力に支えられて I

先日、早朝に男性の方が「神社にマフラーがありました。賀来小中の子どものは。」と持ってきてくださいました。その方は私が登校する6時30分ごろ、いつも火ばさみをもって、地域のゴミを拾ってくださっている方です。いつも賀来校区を見守ってくださっています。また、数日前、登校指導をしていると、車の中から女性の方が「これ使ってください。」とホットアイマスクを手渡ししてくださいました。温かいエールだと感じました。

また、今日(2/15)は東院自治会の三ノ宮会長と福寿クラブ葛城会長が来られて、「東院地区で『賀っ子 見守り隊』を作って、無理なくできる『ながら見守り』を始めました。」と話してくださいました。そろいのグリーンのジャケットと帽子をかぶり、散歩の途中とか、買い物帰り等気長に気楽に危険なくできる賀来の子どもの見守りをしてくださるということです。登下校の交通安全等がとても心配だったので、ありがたいお話だと嬉しくなりました。こうやって、賀来地区は地域の方が学校をしっかりと支えてくださっています。



今、同窓会、自治会、賀来神社の皆様の力で15周年記念事業の計画をしてくださっています。9年生が生まれた年にできた小中一貫教育校の記念事業です。3月2日に実施予定です。また、お伝えします。